**ハンドマイク街頭演説原稿例　岸田内閣の行き詰まり明らか**

二〇二二年十月七日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、臨時国会が始まり、岸田首相の所信表明演説が行われました。安倍元首相の「国葬」強行や、反社会的カルト集団である統一協会と自民党との癒着などで岸田政権への国民の不信感が高まり、マスコミの世論調査で支持率が下がり続ける中での所信表明演説でしたが、その中身は岸田内閣の行き詰まりを示すものとなりました。

　「国葬」への批判に対し、岸田首相は「国民の皆様から頂いた意見を重く受け止める」と述べるだけでした。各党の代表質問で日本共産党の志位委員長は、「国葬」当日に安倍さんへの弔意の強制が行われた事実を示して、強行への反省はないのかとただしました。それに対して岸田首相は「指摘はあたらない」と答えました。「国葬」が憲法の「法の下の平等」や「思想・良心の自由」を踏みにじったという重大な問題に、まったく反省がないことを示す答えでした。

　統一協会問題で岸田首相は「国民の声を正面から受け止め、説明責任を果たす」とは言いましたが、最も深い癒着関係があった安倍さんについての調査をやるつもりはないとも言いました。山際・経済再生担当大臣と統一協会との密接なつながりが次々と判明していますが、それだけではありません。政府の大臣・副大臣・政務官などの職についている国会議員八十人のうち三十六人が、統一協会との接点や関係を持っています。志位委員長は政府として責任を持って調査するよう求めましたが、岸田首相は否定しました。これで説明責任を果たせるのでしょうか。

　所信表明演説で岸田首相は、「日本経済の再生が最優先の課題」だと経済問題に大半を費やしましたが、その中身のほとんどは効果の出ていない対策ばかりでした。「アベノミクス」の目玉である「異次元の金融緩和」が異常円安を招き、物価高騰をさらにひどいものにしたことへの反省は、どこにもありません。志位委員長は代表質問で、緊急提案として消費税の５％減税を提案しました。消費税減税は国民の負担を確実に軽くできる政策であり、世界でもこの間、約百カ国で新型コロナ対策などとして行われています。しかし岸田首相は消費税減税をかたくなに拒否しました。目のつけどころが、そもそもずれているのではないでしょうか。

　岸田首相は「厳しい意見を聞く」と口では言いますが、所信表明演説や代表質問への答えを聞けば、岸田首相に国民の苦しみを聞き取る力がないことは明らかです。みなさん、「岸田政権に日本の政治を任せられない」という声で岸田政権を包囲し、追い詰めていこうではありませんか。日本共産党はこの臨時国会で岸田政権の問題点を鋭く追及するとともに、国民の願いにこたえた具体的な提案をかかげ、実現のために全力を尽くします。

　スクープ連発で広く注目をあつめている「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますよう最後にお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）